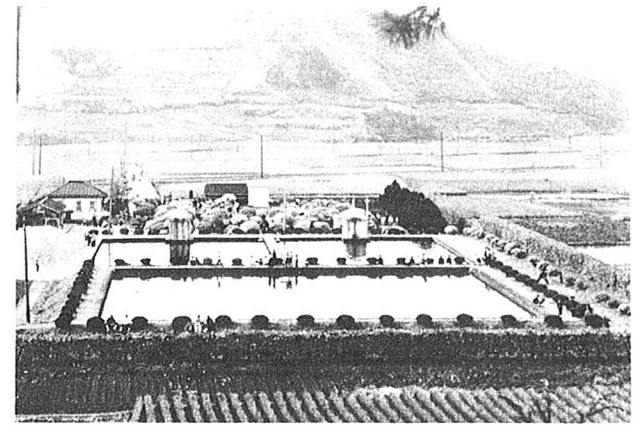


上水道の創設と沿革



創設当時の浄水場全景

1. 水道のできるまで

市の周囲は標高 1,000メートル以上の山岳に囲まれた丘陵地帯であり、これら山岳地帯を水源とする数条の河川に恵まれ湧水も豊富で、この水を堀割り水路や木管をもちいて引水したり、灌漑用水を飲料水や炊事用水として使用してきた。

旧谷村町の住民は、大正11年に上水道が布設されるまでは、家中川の灌漑用水を利用してきたが、しばしば大発生する伝染病が、この流水に帰因しているところから住民の間に上水道開設の要望が高まった。

2. 水道計画

明治37年、谷村町の全域を給水区域とした上水道の布設計画がなされたが、不況と町財政、その他の事情で実施できず、その後も再三にわたり水道布設計画がなされたが、布設認可・起債申請等の手続きに日時を要し、物価の暴騰により布設見合せがなされてきた。

3. 給水開始

大正8年、富山幸太郎町長(現富山節三市長の祖父)が就任されると全力を水道布設に傾注し、関係方面に布設認可・補助金・起債にと奔走され、大正10年3月布設の認可を受け、総工費 234,205円をもって大正10年7月10日工事に着手し、大正11年12月30日多年の念願であった工事が完成し、大正12年2月1日 1,447戸・人口 8,098人に給水を開始した。